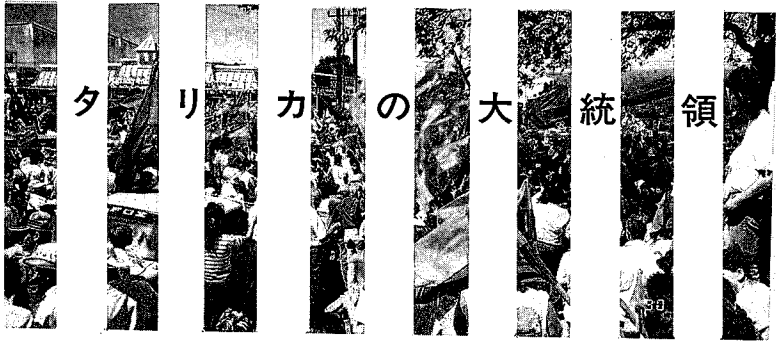


コスタリカの大統領選挙(海外だより)

著者	石井 章
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	7
号	2
ページ	34-35
発行年	1990-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006566

コ ス タ リ カ の 大 統 領 選 挙



石 井 章 (在サンホセ海外調査員)

1989年3月のエルサルバドルにはじまり、90年2月のニカラグアまで、この1年間にラテンアメリカでは10余の国で大統領選挙が実施された。2月4日に行なわれたコスタリカの大統領選挙は、反米か親米か(パナマの場合)、軍政か反軍政か(チリの場合)、左か右か(ニカラグアの場合)といったように争点が明快なもの、したがってどちらが勝つかによってその後の国の政策が大きく変わり、国際関係に影響が及ぶものとは異なり、争点があまりはっきりしないだけに、国際的にそれほど注目されなかった。

コスタリカはラテンアメリカにおける民主主義のモデルといわれているように、1948年の「内戦」を最後に革命や内戦やクーデターによる政権の転覆はなく、選挙に基づいて二大政党の間で平和裡に政権の交替が行なわれている。また49年に軍隊を廃止しており、軍事政権とも縁がない。この国の二大政党とは、48年の内戦で勝利を収めたホセ・フィゲーレスによって設立された国民解放党(Partido de Liberación Nacional, PLNと略称)とそれに反対する諸政党が連合してつくった社会キリスト教統一党(Partido Unidad Social Cristiana, PUSCと略称)である。大統領選挙は4年ごとに行なわれ、再選は禁止される。過去の選挙では1962, 70, 74, 82, 86の各年にPLNが勝利を収め、58, 66, 78年にはPUSCの前身(党名は異なる)が勝っている。

今回の選挙では与党PLNは経済学者で元中銀総裁のカルロス・マヌエル・カスティージョを、野党

PUSCは弁護士で元外相のラファエル・アンヘル・カルデロンを、それぞれ大統領候補に擁立した。カルデロン候補は前記の1948年のフィゲーレスの蜂起で倒されたカルデロン元大統領の子息である。この二大政党以外に大統領選挙に候補者を立てたのは、人民連合(Coalición Pueblo Unido)、キリスト教国民同盟(Alianza Nacional Cristiana)、進歩党(Patido del Progreso)、独立党(Patido Independiente)、闘う労働者の革命党(Patido Revolucionario de los Trabajadores en Lucha)の各政党である。

コスタリカの大統領選挙は争点があまりはっきりしないと述べたが、それはPLN, PUSC二大政党の政策をみてもわかる。たとえば對外政策に関しては、PLNは現政権の政策を基本的に引き継ぎ、中米和平プランの実現をめざす、PUSCは民族の伝統的な価値(平和、正義、民主主義)に基づいて立案する、というものである。当面の経済運営に関しては、PLNは、物価上昇をコントロールし、通貨調整を引き続き行なう。雇用機会の拡大、実質賃金の上昇による大衆の生活水準の向上を図る。對外債務交渉を完結させる。PUSCは、財政赤字を縮小させる。収税の効率を増大させる。新たな構造調整プログラムの交渉を行なう、となっている。外国からの投資は経済発展のために不可欠であるという点では両党とも一致している。

両党の違いを強いてあげれば、PLNの方が若干既存エリート的、PUSCは若干ポピュリスト的ということになるだろうか。PLNの支持者はどちらかといえば所得の高い階層、高学歴層が多く、PUSCの支



持者はどちらかといえば低所得層、低学歴層が多い。両党ともそれぞれ有権者の4割を超える固定票を持っている。したがって選挙戦は残る10数%の浮動票の獲得をめぐる

て争われることになる。このところモンヘ政権(1982~86年)、アリアス政権(86~90年)と二期PLN政権が続いたため、PUSCは「三期連続して同一政党に政権を委ねれば独裁になる」と選挙民に変化の必要性を訴えた。

1989年10月1日を期して選挙運動が解禁され、集会を開いたり、旗を掲げたり、ビラを配るといった活動が始まった。二大政党のシンボル・カラーはPLNが緑と白、PUSCは赤と青で、支持者たちはこれらの二色旗を自宅の軒先に掲げたり、車に取り付けてはためかせたりして支持政党を明らかにする。PLNは「緑白党」(ベルティ・ブランコ)、PUSCは「赤青党」(ロッシ・アスル)と俗称されることもある。筆者の見たかぎりではサンホセ市内でも地方でも赤青旗が緑白旗を圧倒しているようであった。またそれぞれの街頭集会に行ってみたが、どうも野党PUSCの方が意気盛んな印象を受けた。

ラテンアメリカの人間の中では穏やかなコスタリカ人も、サッカーの国際試合と選挙のときには興奮するらしい。投票日が近づくにつれ街頭集会での気分も盛り上がり、それぞれの二色旗を掲げた自動車は警笛を盛んに鳴らす。2月4日の投票日、投票所付近では小学校高学年から高校生ぐらいまでの子供たちが動員されて、緑白や赤青のお揃いの服や帽子を身につけ、旗を振って、まるで運動会か学校の対抗試合の応援合戦のような賑やかさだ。

即日開票でその日の夜遅くには結果が判明する。

大方の予想どおりPUSCのカルデロン候補が第47代大統領に当選したが、得票率はPUSCが51.3%、PLNが47.3%と僅差であった。その他の政党はいずれも1%未満であり、そのなかでは最も多い共産党系の人民連合で0.7%にすぎない。コスタリカは七つの県(provincia)に分かれており、各県ごとに票が集計されるが、首都を含むサンホセ県に関するかぎりPUSC49.3%、PLN49.2%と互角、比較的開発の遅れた周辺の県ほどPUSCが優位という結果が出た。

ところで任期最終年にあたってアリアス前大統領の評判はすこぶるよかった。それは1989年には物価上昇率が10%未満に抑えられるなど経済が比較的良好だったことと、同大統領の国際舞台での活躍ぶりによる。中米和平交渉において指導的な役割を演じ、米州サミットを開催するなど、コスタリカの国際的地位を高めたと評価されている。

しかしアリアス氏の人気が必ずしも与党PLNの候補者への票とは結びつかなかった。PUSCの勝因として、PLN政権が二期続いたため選挙民がここで交替を望んだことがあげられる。カルデロン候補は1982年、86年の大統領選挙にも立候補したが、いずれもPLNのモンヘ候補、アリアス候補に敗れており、今回3度めの挑戦で当選を果たした。

今回の総選挙では、大統領の他に国会議員、地方議会議員、地方自治体首長の選挙も同時に行なわれた。国会は一院制で議席数57、各選挙区(県単位)ごとに比例代表制で選出される。改選前にはPLNが29議席、PUSCが25議席、その他の政党が3議席であったが、改選後は二大政党の議席数が逆転し、PUSCが29、PLNが25、その他3となった。その他の内訳は、サンホセ選挙区から人民連合とヘネラル連合党(Partido Unión Generalista)が各1、カルタゴ選挙区からカルタゴ農業連合(Unión Agrícola Cartaginés)1議席となっている。